

第3学年 総合的な学習の時間（人権）学習指導案

1 主 題 地域の行事に込められたあたたかい思いに共感しよう

【道徳の視点】 A-5

2 資 料 「えがおかがやくりんぼ館まつり」（自作）

3 本時の目標

たくさんの人を笑顔にしたいという願いで隣保館まつりを作った地域の人たちの思いを知り、隣保館まつりを誇らしく思うぼくの気持ちに共感することができる。

児童の活動	指導上の留意点・支援（◇評価）	備考
<p>1 総合隣保館がなぜできたのかを思い出す。</p>	<p>○ 総合隣保館はたくさんの人が集う場所だと思い出させることで、その工夫のひとつに隣保館まつりがあることを想起させる。</p>	<p>（全体） 挿絵</p>
<p>「もう帰りたい」と思っていたぼくが、思わずえがおでむねをはって歩き出したのはどうしてだろう。</p>		
<p>2 ぼくの気持ちの変化を考える。</p> <p>（1）ファッションショーを待っている時のぼくの気持ち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なんでモデルをすると言ってしまったんだろう ・はずかしい ・もう帰りたい <p>（2）まつりを始めた人たちの努力や願いを知った時のぼくの気持ち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・反対があったのに、始められたのはすごいな ・みんなのことを考えてやさしいな ・20年以上も続いているなんて大変だっただろうな 	<p>○ 「友だちにさそわれて」に着目させ、自分から進んで出ようと思っていたことに気付かせる。</p> <p>○ 人前に出ることが苦手な性格だということをおさえ、出番前のぼくの気持ちを考えさせることで、帰りたいくらいいやがっているぼく的心情をつかませる。</p> <p>○ なぜ、まつりを始めようとしたのかを考えさせることで、総合隣保館をたくさんの人が集まり笑顔になる場所にしたいという地域の人々の願いに気付かせる。</p> <p>○ 反対意見を乗り越えたことで、それだけ強い思いであることを感じとらせる。</p> <p>○ 20年以上続いていることに着目させ、それだけ地域の人々が大切にしていることをとらえさせる。</p>	<p>（全体） 挿絵</p>
<p>3 むねをはって笑顔で歩き出したぼくの気持ちを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんながあたたかいえがおで見守ってくれているのがうれしかった ・苦労をのりこえて行っているまつりとわかったからほこりに思えた ・集まった人のえがおにおにゆうきをもらったから ・ぼくもこのまつりを大切にしていこうと思った 	<p>○ 帰りたいくらいの思いだったぼくの気持ちと館長さんの話を聞いた後のぼくの気持ちを対比させて考えさせることで、隣保館まつりに込められた思いにせまらせる。</p> <p>◇ 隣保館まつりは、たくさんの人々のふれあいの場であり、そこに集う人々が心を通わせ笑顔あふれる場であることに気づき、誇らしく思うぼくの気持ちに共感することができたか。</p>	<p>（個人） ↓ グループ ↓ （全体）</p>
<p>4 総合隣保館の館長さんからの手紙を聞く。</p>	<p>○ 本教材の地域の人々の思いや、総合隣保館長さんの願いを知ることで、これから進んで総合隣保館や行事に参加しようとする意識を高めさせる。</p>	<p>館長さんからの手紙</p>